

専門講師の支援・助言を受けながら、学校・教職員の働き方改革を進めていきませんか？

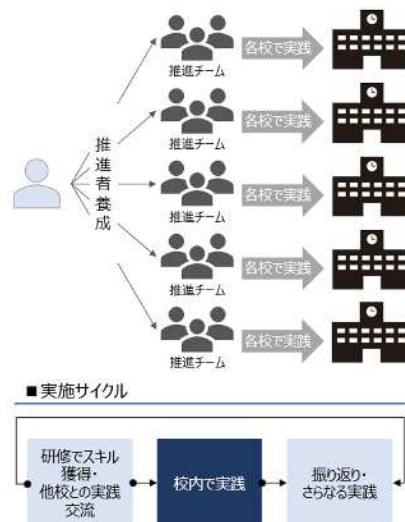
- ポイント①：実践がメイン！1年で終わりではなく、その後も改善を継続・自走する学校を目指す
- ポイント②：時間削減だけではない！教育の質を高める業務改善
- ポイント③：豊富な事例と他校との実践交流から学ぶ
- ポイント④：オンライン中心の研修と個別サポート！担当の先生方への負荷も軽減

★ポイント①：実践がメインの研修で、自走する学校を目指す

○研修内容

モデル校の業務改善推進者が研修に参加し、研修で得た知識・ノウハウ・体験などを生かして校内で業務改善を実践していく

研修概要（校内改革の推進者養成）	
対象	選定されたモデル校の推進者1名以上
回数	全体研修5回＋各学校の個別サポート
開催形式	初回は現地集合研修、2回目以降はオンライン（双方向の1Day研修5回＋個別サポート）
実施サイクル	全体研修でのノウハウ提供や体験ワーク、実践交流を刺激にしつつ、 <b>校内を具体的に変革する実践がメイン</b>



★ポイント②：時間削減だけではない！教育の質を高める業務改善

○働き方改革の目的は「教育の質の向上」

そのためには「時間」「心」「身体」のゆとりが必要

○余白を生むことと教育活動の質の向上は両輪

- ・教職員の仕事に対するモチベーション（やりがいや忙しさ）の観点でも、日々の活動時間・活動内容の観点でも、教育活動（授業、学校行事、生徒指導、部活動など）が占める割合が非常に大きい ⇒教育活動の改善こそが働き方改革の本丸

働き方改革の目的は「教育の質の向上」

働き方（時間の使い方）を見直すことで

- ・子どもと向き合う時間
- ・新しい学校運営や教育創造へチャレンジ
- ・教職員の心身の健康増進
- ・豊かな私生活でのインプット

これらを生み出し、学校運営の質を上げる

⇒ 周辺業務の改善を進めつつ、生み出した余白で教育活動の改善をしていきませんか？

★ポイント③：豊富な事例と他校との実践交流から学ぶ

- ・全国の学校の業務改善を支援する中で培ってきたスキル・ノウハウ・豊富な事例などを惜しみなく提供！
- ・モデル校20校の推進者が一堂に会する全体研修での他校との実践交流が、各校の課題解決のためのヒントや気づきになる。推進者同士の励まし合いが生まれ、モチベーションも高まる。
- ⇒ 推進への大きな手助けに



★ポイント④：オンライン中心の研修と個別サポート！担当の先生方への負荷も軽減

○オンライン個別相談

全5回の研修のほか、モデル校全校にオンラインによる90分間の個別相談を実施

⇒ 学校のニーズに合わせた形で、ワークショップの実施や講師による講話などのサポートが可能

参考：研修の日程

回数	日時	会場等	内容
第1回	7月下旬 ～8月上旬 10:00～16:00	未定 (集合研修)	・学校主体で業務改善を進めるために大切な思考法 ・授業改善と業務改善の両面からアプローチする方法 ・校内の巻き込み方、実際の進め方、アクション計画作成 ※初回のみ校長も参加して目標設定を行う
第2回	9～10月頃 10:00～16:00	オンライン (Zoom)	・校内で業務改善を進めるためのノウハウ、ワークショップ体験 ・実践共有+見えてきた課題に応じて見直しを立て直す
第3回	10～11月頃 10:00～16:00	オンライン (Zoom)	・追加インプット(目的を問い直すワークなど) ・実践共有+見えてきた課題に応じて見直しを立て直す
第4回	11～1月頃 10:00～16:00	オンライン (Zoom)	・実践共有+個人面談 ・成果とりまとめ+次年度以降の見直しを立てる
第5回	1～2月頃 10:00～16:00	オンライン (Zoom)	・成果とりまとめ+次年度以降の見直しを立てる(継続) ・実践報告会

○第2回～第4回の全体オンライン研修

- ・全体研修には、各モデル校から選出する業務改善推進者（1名以上）が参加  
⇒特定の1名に負担が集中しないように、校内で入れ替わっての参加も可能  
複数名での研修の参加が校内での業務改善推進のための仲間づくりにも  
※推進者の負担軽減と研修への柔軟な参加調整を可能にするため、推進チームの組成を推奨

○第5回実践報告会

- ・実践報告会のための資料づくりは第4回の研修内で時間を確保⇒負担軽減
- ・報告書作成がこれまでの取り組みの振り返り・反省となり、次年度以降への継続にも繋がる



参考：研修で体験し、校内で実践するワークショップ例

■明日から時間を生む「時間予算ワークショップ」

- ✓ 1人だと7時間45分の勤務時間だが、2人だと15時間30分…  
というようにチームで上手く時間を使う方法を考えるもの
- ✓ ワークショップ等の内容、進め方は、学校の実情と経営方針等に  
応じて変わっていくが、弊社考案の「時間予算ワークショップ」は  
10都道府県政令市、105校以上で実施され効果をあげている
- ✓ オンラインでも実績がある

- 効果① 現状に目を向けて、自分を俯瞰できる
- 効果② 普段、それぞれが思っている「こうした方がいいのに」という  
アイデアを存分に出しあえる、しかも実行に移せる。
- 効果③ 多様な考えを知り、新たな解決策に気づく
- 効果④ 時間への意識が高まる

オンラインで開催した時のオンライン模造紙の画像



■本当に必要なことが見えてくる「目的から手段を問い直すワークショップ」

- ✓ 手段から上位目的を導き出し改めて手段を問い直す
- ✓ 日頃如何に目的を意識していなかったかに気付く、教師同士で対話を通して考えることで、次の効果がある

- 効果① 手強い多様性も統合することが可能であり、そのためのプロセスがあると知ることができる
- 効果② 日頃いかに目的を意識していなかったかに気付く
- 効果③ 教職員がお互いのことをよく知り、チームワークが高まり、その後、学校が組織的に取り組むときに常に原点に立ち返ることができる  
ようになる